

平成28年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ 思う ■ どちらかといえば、思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
--	---	--

【学校から】【1一人一人の児童生徒の尊重】「4」「3」の評価が、保護者で6ポイント、児童で4ポイント増加しており、日頃の取り組みの成果であると考えられる。しかし、「2」「1」の評価が共に10%ほどあることから、一人一人に目を向けた、より細やかな配慮を行う必要がある。【2友達への思いやり】保護者、児童共に、「4」「3」の評価が97%と高く、「友だちと仲良くしている」と答えている。しかし、学校生活では、自己中心的な言動や些細なことでのトラブルも見られるので、集団でのよりよい過ごし方や児童の相互理解、仲間作りのための支援を今後も行っていく必要がある。【3道徳・心の教育の充実】保護者の「4」「3」の評価は、昨年度と変わらないが、「4」の評価が下がっており、道徳の授業をはじめ、日常指導の充実、体験学習の重視、家庭との連携など、さらなる取り組みの工夫が必要である。

②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】【4意欲的な学習態度】保護者、児童の「4」「3」の評価は昨年度と変わらないが、児童の「4」の評価の落ち込みが見られる。授業における導入や発問、授業形態などを工夫し、楽しく取り組むことができる授業をさらに充実していく必要がある。【5授業力向上】保護者、児童ともに、「4」「3」の割合が増えており、9割近くとなっている。しかし、児童の「2」「1」の割合が1割を超えており、児童の一人一人の実態に応じた、楽しく、「わかる・できる」授業づくりの工夫をさらに行っていく必要がある。【6ICT活用】大型TVや視聴覚機器の充実を図り、教職員のICT活用の意識が高まっている。児童の「4」「3」の評価も9割を超えており、今後もより効果的な活用を行っていききたい。

③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いや食事し適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p>【学校から】【7健康づくり】昨年度の評価と大きな変化はなかった。食に関しては、食べ物の好き嫌いや偏食の傾向が見られる児童もあり、摂食量の個人差も大きい。食に関する指導と家庭との連携を行いながら、望ましい食習慣づくりを進めていきたい。運動面では、外遊びを進んでする児童とそうでない児童の差が大きい。体育部では、例年、持久走月間や縄跳び月間などを設定し、教科体育以外にも運動の機会を確保している。ゲームやテレビ視聴の時間が多い児童もあり、家庭と連携しながら望ましい生活習慣を身につけさせたい。</p>
---	---

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
---	--	--

【学校から】【8児童生徒理解】保護者、児童の「4」「3」の評価が昨年度より増えており、教職員の「認め、ほめ、励まし、伸ばす」姿勢が反映されていると考えられる。しかし、児童の「2」「1」の評価が1割以上あるので、さらに児童全員としっかりと向き合う姿勢をもって取り組みを進めていく必要がある。【9いじめや問題への対応】児童「4」「3」の評価は、昨年度と同様に9割を超えている。月ごとの「きずなアンケート」や日常の児童との信頼関係づくりが、早期対応につながっていると考えられる。しかし、「2」「1」の評価をした児童もあり、より積極的に児童とのコミュニケーションをとっていく必要がある。【10学校の支援体制】保護者、教職員共に、若干の落ち込みが見られた。特別支援コーディネーターを中心に、支援が必要な児童についての共通理解の場を設けて取り組んでいる。保護者との協力体制を確立しながら、全職員で取り組んでいく意識をより高めていきたい。

<h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p> <p>【学校から】【11安全と事故防止】保護者、児童共に、昨年度と変わらず、「4」「3」の評価が9割を超えている。交通安全指導や各種避難訓練等の実施により、意識の高まりが見られる。しかし、日常生活における児童のけがが多いので、遊び方や校内安全の指導の徹底を図りたい。</p>	<h3 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p> <p>【学校から】【12施設・設備の安全管理】保護者、児童の「4」「3」の評価は8割を超えているが、「4」の評価が若干下がっている。地震等の影響も考えられるので、「2」「1」の評価の対象に関して、施設の安全点検の徹底や補修、清掃等に取り組んでいく必要がある。</p>
--	---

③家庭・地域社会との連携強化

<h4>13 教育方針・目標の理解</h4>	<h4>14 家庭や地域との連携協力</h4>	
<p>学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。</p>	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>	
<p>【学校から】【13教育方針・目標の理解】学校の教育方針や目標については、保護者に集まっていただく機会に校長から話をしたり、学校便りで説明をしたりして、理解と協力を求めている。「4」「3」の評価は昨年度と変わらず8割を超えている。「2」「1」の評価も減少はしているが、より理解を深めるためにも、繰り返しの発信を機会や方法を考えて進めていきたい。【14家庭や地域との連携協力】日頃から、PTAの方々、地域の「もったいない隊」や各種団体等の協力や支援をいただきながら、様々な活動に取り組んでいる。保護者の「4」「3」の評価も増加している。「2」「1」の評価を今後も減らすことができるように、さらに保護者や地域との連携を進めていくための方策を考えていきたい。</p>		

本校の教育

<h4>15 あいさつ</h4>	<h4>16 家庭学習</h4>	<h4>17 生活習慣</h4>
<p>子どもは、よくあいさつをしていると思いますか。</p>	<p>子どもは、宿題も含め、家庭学習をしていると思いますか。</p>	<p>子どもは、「早寝、早起き、朝ごはん」に代表される、リズムのある生活ができていますか。</p>
<p>【学校から】【あいさつ】あいさつの大切さを伝えながら、学期始めや校内のあいさつ運動などに取り組んでいる。昨年度に比べ、保護者の評価は高くなっているが、児童、教職員共に下がっている。今後も、機会を捉えてあいさつの重要性を伝えると共に、地域の方々にもあいさつができるよう取り組んでいきたい。</p>	<p>【学校から】【家庭学習】三者共に、「4」「3」の評価が昨年度より増えており、家庭学習の習慣が身についている傾向が見られる。しかし、「2」「1」の評価がそれぞれ2割近くあり、特に児童の「1」の割合が高いため、個に応じた家庭学習の内容の工夫と共に、保護者の協力を求めながら、さらに習慣づけを図っていく必要がある。</p>	<p>【学校から】【生活習慣】本年度、新たに設定した項目である。児童の「4」「3」の評価が8割であり、多くの児童がリズムのある生活を送っているということが分かった。しかし、「2」「1」の評価があるので、朝食の摂取率や睡眠時間等をチェックしながら、家庭と協力し、よりよい生活習慣づくりをさらに進めていく必要がある。</p>

来年度の具体的な取り組みについて

○「豊かな心をはぐくむ教育の推進」においては、相手を思いやる心や生命尊重、礼儀等の基本的な事柄について、道徳の授業や日常的な指導を通して身につけていきたい。特に、一人一人に目を向けた細やかな指導を心がけると共に、全職員が一丸となって児童を育てていくという意識をより高めていく。

○「確かな学力を育む教育の推進」においては、全国学力学習状況調査の結果や学力テストの結果を分析し、課題となる内容について洗い出しを行い、繰り返しの取り組みにより定着を図る。また、校内研修では研究の視点に沿って、よりよい授業改善を進め、児童が楽しく取り組むことができる、「わかる、できる」授業の構築を目指す。さらに、ICT機器の充実を図ると共に、めあての明確化や振り返りを大切にしたい。児童が達成感をもつことができるような授業づくりを行う。

○「健やかな体を育む教育の推進」では、望ましい食習慣、運動習慣づくりを目指して取り組んでいく。本年度の学校保健委員会のテーマが食育であり、その取り組みを生かし、家庭と協力しながら進めていく。運動面では、地震に伴い、体育館が使用できなかったため、不足する運動領域の補完を意識して行っていく。体力テストの分析を行い、落ち込んでいる部分を高めるような運動を工夫し、実施していく。教科体育の充実と運動量の確保、児童が進んで運動に取り組むような児童会活動を中心とした行事の企画など、工夫した活動を取り入れていく。

○「いじめ・不登校などに対する相談支援体制の充実」においては、月に一度の「きずなアンケート」の実施を継続し、児童の心の問題に対して、早期発見、早期対応をするという意識を全職員で共通してもちながら実践していく。また、日頃から児童と関わる時間を確保し、信頼関係を築いていく。支援が必要な児童に関する情報を全職員で共有し、特別支援コーディネーターを中心に、支援体制を確立し、適切な支援を行っていく。

○「子どもたちの身近な安全対策の充実」では、児童の命に関わる内容であり、引き続き、確実な避難訓練の実施や交通安全教育の徹底などを行う。また、地域の「もったいない隊」に協力を仰ぎ、登下校の見守りを行う。校内でのけがの防止のために、委員会活動や学級活動等において、安全な生活についての呼びかけを行う。「最適な学習環境の整備」では、月ごとの安全点検を確実にし、不良箇所の早急な修繕を行う。また、教職員も児童と共に毎日の清掃活動に取り組む。

○「家庭・地域社会との連携協力」においては、学校の教育方針や教育目標について、今後とも年度当初から学校便りや学級便り、PTA新聞などを活用し、分かりやすく、繰り返し発信していく。また、保護者参会の機会や諸団体の会合等の折に、丁寧な説明をしていく。学校からの発信だけでなく、地域や保護者からの声に真摯に対応し、理解と協力を得ながら取り組みを進めていく。

学校関係者評価

○「一人一人の児童生徒の尊重」や「ICT活用」については、グラフの形状が酷似している。ともに児童の肯定意見が多いが、保護者に反映していない面が見られる。児童の学校での生活の様子が、保護者に伝わっていないのではないかと。保護者は、普段学校の様子を見る機会が少ないので、家庭で学校の様子を児童と話す場を作ってもらいなど、保護者の協力を得ることも必要ではないか。

○「家庭や地域との連携協力」では、保護者の「2」や「1」が、どんな要因で評価されているのかを知る必要がある。学校が、地域とどうつながっていけばいいのか、家庭とどのような連携をしていくことが求められているのかを知る手段を工夫していく必要がある。

○「教育方針・目標の理解」では、学校便りをよく出され、理解を図られているが、より見やすく、端的に伝わるような工夫も必要ではないか。また、保護者と担任がじっくりと話し、教育方針や児童の様子、今後の方向性などについて話し合う機会づくりを行うことも大切にしたい。

○体力面で課題があるとのことだが、外遊びの経験が少ない児童が多いのではないかと。公園などでも、遊びが制限されており、ボールなども使えないことが多い。運動習慣づくりも、難しい面があるので、教科体育や体育的な行事などでしっかりと運動量を確保させていく必要がある。

○あいさつは、する児童としない児童の差があるようだ。日常のあいさつや、あいさつ運動などの機会を大切に、取り組んでほしい。

○「生活習慣」においては、早寝早起きができない児童や朝ごはんを食べて来ない児童がいることが気になる。授業の集中力にも関係してくるので、家庭への呼びかけを継続していく必要がある。